

## ストライキ突入宣言

われわれは、本日、不当解雇撤回に向け満腔の怒りを込め、ストライキ闘争に決起することを高らかに宣言する。

仲間が解雇されて黙ってられるか！この蛮行を断じて許さない！われわれは、加藤誠二さんの不当懲戒解雇を許さず早期職場復帰を勝ち取るために、職場の隅々から闘い抜く決意である。

今年1月、ホームページで労務管理の「シナリオ」が暴露されて以降、会社は警察権力と一体となって、用意周到に「窃盗事件」デッチ上げを企てた。そして、7. 13不当家宅捜索などJR東海労の一挙的な破壊攻撃を熾烈に仕掛けてきた。検察が起訴もしていない状況で、会社はアリバイ的に社内調査を行い、「文書を摂取したのは明らか。会社は確信している」と一切根拠を示さず一方的に「犯人」と決めつけた。そして、9月27日不当懲戒解雇処分を発令したのだ。われわれは、この日を絶対に忘れない。

いま職場では、主任レポートに代表される社員同士の監視や管理者絶対の「規律と忠誠心」「命令と服従」の軍隊並みの労務管理が強化され、社員の不満は増大している。そのあらわれが、かの「内部告発」文書だ。一方において、「看板商品」である「のぞみ」に飛び込み自らの命を絶つという、悲惨な「無言の抵抗」も繰り返かえされている。われわれは、このような労務管理に真向から立ち向かってきた。

不当解雇処分の狙い明らかだ。会社の労務管理に敢然と立ち向かい、労働者的な闘いが職場の隅々に浸透し、他労組組合員をも巻き込み闘いが広がることに恐怖するがゆえに、なんとしてもその闘いを圧殺することが狙いなのだ。

われわれは、今日まで幾多の大弾圧にさらされようとも、仲間としっかりスクラムを組んで跳ね返してきた。弾圧では組織はつぶれないことを組織の総力をもって証明してきた。これからも闘いによって跳ね返していく。

われわれの解雇撤回闘争は、すでに全組合員が一丸となった主任レポート提出拒否、非協力闘争、ビラ配布行動など職場闘争として果敢に展開されている。そしていま、名古屋地本組合員19名がストライキに決起した！

全組合員の皆さん！吹き荒れる反動の嵐に抗して、決して怯むことなく、そして正々堂々と前に向かって、不当解雇撤回・早期職場復帰まで闘おう！

美世志会をはじめJR総連に結集する全ての仲間と共に、闘いを貫徹しようではないか！

以上宣言する。

2007年11月4日

JR東海労働組合  
ストライキ突入集会